特 114
263

幸運のために

埼玉縣保健調査會

始

特114
263

はしがき

一、本書は一般の人々に結核に關する智識を普及して人生を幸運に導くために刊行したのです。

二、簡單はもとより欲する處でありましたが結核のやうに複雜した病の説明は一通り書きませんと諒解が出來ず反て疑念を深からしめずかと心配し、つい細かく長くなりました。

三、本書中の結核は總て肺結核を意味して居ます。

四、本書は健病男女長幼を問はずお讀み下さいお讀みになつたら多くの人々に宣傳して下さい幸運は自分ばかりで專有すべきものでありません。

大正十二年三月　　編者識

大正 12. 5 內交

目次

第一　結核は人類の敵である……一

(イ)結核の惨害……一

死亡統計……損害……一

(ロ)死ぬ人の年齢……四

病める人々……五

病める人は何處ぞ……六

(ハ)職業と結核……六

第二　結核はどうして起るか……一一

(イ)結核は結核菌から……一一

結核菌の發見……一一

結核菌の大きさ……一三

結核菌はどうすれば死ぬか……一三

(ロ)結核菌の棲むところ……一五
(ハ)結核菌の浸入する門戸……一五
結核に遺傳なし……一八
結核素質とは何か……一八
結核の成立……二一
小兒の結核……二二
ビルケー氏皮膚反應と屍體解剖……二三
第三　結核の容態……二五
(イ)時期の分類……二五
初期の容態……二六
中期及末期の容態……二八
(ロ)結核の變型……三一
一、貧血……三一
二、月經困難……三一

三、神經衰弱……三三
四、神經性消化不良……三三
五、喘息……三三
六、肋膜炎……三三
七、疑似結核……三三
八、老人性結核……三四
九、肺粟粒結核……三四
第四　療養……三四
(イ)自宅療養の設備……三五
(ロ)患者心得……三八
(ハ)看護人の心得……四二
(ニ)療養方則……四六
(ホ)空氣療法……四九
(ヘ)安靜療法……五〇

第五　結核の個人的豫防……五二
(イ)消極的豫防……五二
一、喀痰に對する豫防……五三
二、衣類寢具書物其他に關する豫防……五四
三、飲食物に對する豫防……五五
四、家屋に對する豫防……五五
五、病後に對する豫防……五六
(ロ)積極的豫防……五六
一、結婚に關する注意……五六
二、空氣日光に關する注意……五七
三、職業に關する注意……五八
四、体育に關する注意……五九
五、結核豫防の歌……六〇
第六　結核の社會的豫防……六五

(イ)結核豫防に關する宣傳……六六
(ロ)貧困患者の救護……六七
(ハ)社會的豫防施設……七一
(ニ)國民体力の增進……七五

幸運のために

埼玉縣保健調査會

第一　結核は人類の敵である

獅子よりも猛く、虎よりも恐ろしきものは、病氣である、而して數ある病氣の中で、傳染する病は一層に恐るべきである、特に結核といふ病氣は、最も憎むべき病氣である、想ふに人類間に、此の病氣が存在する限り、人生の幸福は求められぬ、げに結核は、人類の敵である、此の敵は、氷雪皚々の北極にも、黒金熔かす熱帶にも、人類の棲む處、鷄、犬の鳴く處、必ずや結核を發見するのである。

(イ)結核の慘害

「死亡統計」統計に依れば、大正八年吾が邦の總死亡は、百二十八萬千九百六十九人で、ある、其内九萬三千百十七人は、結核で死んで居る、猶其の他の結核死を合せると、約十二萬人となる、或る人の調査に依れば、五分間に、一人づゝ死ぬ割合だといふから、

雨降る日、風吹く日、寝て居る間、起て居る間も、時計の針の五分毎に、吾等の同胞は結核菌の爲めに奪ひ去らるゝのであるから、安閑と涼しい顔をしては居られぬ、若し是れをしも晏如たらば、吾等國民は、到底無神經、無慈悲の、譏りを免れ得ぬ、然るに、今日此の涼しい顔の人が、世間に多いのは、遺憾である。

「損害」經濟上から見たる結核の損害は、之れ亦容易ならぬ額である、即ち結核の爲めに消費する、生產能率、治療費、葬式費、等は蓋し莫大であるのみでなく、死に逝く患者の悲哀、病者の苦痛、家人の憂慮、等を想像するならば、物質上、精神上の損害は、實に無限である、今結核の爲めに蒙る、國家の損害は莫大である、試みに之れを概算するならば

一金千萬圓　死者一人百圓の葬式費十萬人分
一金六億圓　患者一人一ヶ月五拾圓年六百圓と見積り治療費百萬人分
一金六億圓　患者一人年六百圓の生產力損害百萬人分
計金拾貳億千萬圓

此の額は、政府一ヶ年の歲計に近い、假りに結核なしとするならば、此の金は立派に國政を料理し得るのである。

「社會問題」社會上から見た結核は、下の如くである、即ち結核は、社會問題として重要なる關係がある、結核が原因して自殺するもの、他人を殺傷するもの、夫婦の破鏡に泣くもの、親にして子を殺すもの、親に遺され孤兒となり世を儚むもの、秀才も、佳人も、希望も、抱負も、悉く之れ、犧牲、破壞、絕望、等の不吉なる文字は皆結核の悲劇である。

世には哀れの事のみぞ多き、朝な夕なの新聞記事を見よ、別けて哀れの通信は、下の文字である、結核で妻に死なれ、十五歲の女を頭に、三歲の男子の乳呑兒まで五人の兒を遺された、佐野孝吉(四三)なる父親は、其日々々の稼業さへ、勵みて足らぬ瘠世帶、ましてや手架足架の五人の子供を如何せん、子守する間は、働きて糧を求むる、急迫の立場につまる、吾が思ひ、思ひ餘りて、五人の兒を殺して、吾が身亦自殺せり、書置に「子供は能く云ふことを聞き分けて吳れた」と、吁其場の有樣が、眼に見へる氣がするではないか、而かも是の哀れなる珍事は、雪ぞ深かる、北越の南蒲原郡坂井村にありしてう、通信は此れ結核の慘劇である、尙ほ哀れなる數々には、病める吾が身の結核を、悲觀

の餘り縊死せり、或は毒藥、或は刄物と、自暴自棄する、薄命の人は、指折り數ふ暇もなし、吁人類の敵憎むべし、人智の限りつくしてぞ、何日か絶やさん結核を、社會の波風捲き起す、此の結核を退けよ。

(ロ)死ぬ人の年齡

此の表を一覽せよ十五歲から三十歲の者が最も多く死んでゐる

年齡	肺結核死亡千人ニ對スル比	大正八年肺結核死亡總數
〇——五才	二七、八	二、五八七
五——一〇才	二〇、五	一、九一一
一〇—十五才	五四、七	五、〇九五
一五—二〇才	一九二、二	一七、八九五
二〇—二五才	一八三、四	一七、〇七五
二五—三〇才	一二八、七	一一、九八七
三〇—三五才	九〇、七	八、四五三
三五—四〇才	六九、八	六、四九五
四〇—四五才	五七、一	五、三一五
四五—五〇才	四三、三	四、〇三三
五〇—五五才	四二、一	三、九一八
五五—六〇才	三一、一	二、八九五
六〇—七〇才	四五、六	四、二五〇
七〇才以上	一三、〇	一、二一一
年不詳	〇、〇	三
計	一〇〇〇、〇	九三、一一七

(此の年齡級の死亡數及千人部合に注意せよ)

斯く青壯年期に死に逝く者は、人生の最大不幸である此等の年頃は所謂一家の柱石で容易に搖いてならぬ責任時代である青年ならば中學も卒業した大學に進んだ秀才だ名譽だ女子ならば別嬪でお嫁の約束が出來たなぞと希望に輝く年頃で之れを時候に見るならば花咲く春の節である無情なる哉此の春は結核菌の嵐ふく落花のさまぞ悲しけれ。

「病める人々」病める人々は果して世間幾人かある少なくも百萬を下らぬ口で百萬は何でもないが此の數は確かに一國一縣の人口である。病める百萬の人々は今何を爲し何を

考へつゝあるか望む處は癒さんと焦せることである又中には刻々迫る生活難に醫薬に親しむ金もなく運命のまに〳〵せんすべなき哀れなる患者もあるアゝ病める人々は今何を考へつゝあるか冬の夜寒にむせ入る咳嗽は咳嗽する度に生存から遠ざかり行く薄命者ならむ寢ても眠れぬ苦しさは悲觀煩惱やるせなき患者の心想はるゝ。

病める人々は何處ぞ病める人は都會に多く田舍に少ない殊に人家稠密に住宅狹く且つ闇く而かも煤煙の濛々たる工業地は庭の植木にあらずとも枯るゝは同じ人々の體も疲れ枯るゝなる都會の死亡は驚くべし其の二三割は結核である田舍も亦結核は少ないとは云ひながら昔と今と較ぶれば日一日と數多し。

(八)職業と結核

結核と職業とはまことに因緣が深い分けて工業が發達すると結核が多くなる。

本邦職業別結核死亡（死亡千に對する比）（内閣統計局年報）

職業別	死亡率
一、彫刻印刷業	四〇五、〇
二、綿糸織物業	三一五、一
三、教育に關する業	二七七、四
四、被服及洗濯業	二七三、六
五、雜種工業	二六七、三
六、紙皮革ゴム業	二二二、二
七、機械器具業	二一七、〇
八、金屬製造業	二〇五、七
九、土石類採取業	一七二、〇
十、化學的製品業	一七〇、五
十一、染物及練業	一六九、三
十二、公務及自由業	一六七、九
十三、交通業	一六五、八
十四、雜物及申告不詳	一五六、四
十五、商業	一五六、二

十六、土木建築業　一五〇、三
十七、木竹類製造業　一四九、八
十八、飲食料品業　一四七、一
十九、人力馬車業　一三七、七
二十、無職及無申告業　一三三、五
廿一、鑛業及冶金業　一三三、五
廿二、現役軍人　一三〇、五
廿三、船舶運輸業　一二三、七
廿四、漁業　九九、三
廿五、石炭及石油採掘　九五、四
廿六、農業及牧畜業　八四、九

第一番に多い職業は彫刻や印刷業である印刷業は白晝も電燈で活字を拾ひ日光と仲違ひして眼にも見兼ねる小さき活字を丹精こらして拾ふもあれば塵埃多き不潔な空氣を吸込みながら働く稼業の印刷工は野外に親しむ事なき故何日とはなしに疲れつゝ終に結核

を起すのである。

綿糸織物業とは紡績及機業の類である近時此の事業の勃興から約二百萬の女子は工女として地方から募集されてある工場の衛生狀態が今日どんなであるかは茲に略するが兎に角工業は吾邦の結核を蔓延させて居る。斯く云ふならば工場主は腹を立てるならんが事實は事實である。

第一表　工場在籍職工業務及病因別死亡率（死亡者千に對する比）　石原修氏

	肺結核	肺結核に疑あるもの	其他結核	脚氣	胃腸病	其他	計
紡績	三四五	一二六	七一	八二	四一	三三五	一〇〇〇
製糸	一六五	一四二	三八	三八	一〇三	五一四	一〇〇〇
織物	一六三	三八	一二五	八八	八八	四九八	一〇〇〇
製麻	一八八	一二五	一九	一二五	六三	四八〇	一〇〇〇
	二一五	一〇八	六三	八三	七四	四五七	
	三八六			六一四			一〇〇〇

第二表　疾病及事故歸郷職工業務及病因別死亡率（死亡千に對する比）

石原修氏

	肺結核	肺結核に疑あるもの	脚氣	胃腸病	其他	計
紡績	四一三	三一二	九九	六六	一二一	一〇〇〇
製糸	三七四	三三四	二四	一一四	一六六	一〇〇〇
織物	三五四	二九二	五〇	一一八	一八五	一〇〇〇
製麻	三三八	三二四	八八	四四	二二六	一〇〇〇
	三九〇	三一三	六四	八六	一四六	一〇〇〇
	七〇三		二九七			

第一表では約四割は結核及結核の疑あるもの乃至肺以外の結核で死んで居る其内でも肺結核死は紡績次は製麻製糸織物の順位である。

第二表では歸郷職工の七割は結核若くは結核に疑ある病氣で死んで居る歸す者是が歸るもの非が茲に論議の暇はないが吾邦工業の發達は決して健康でない資本主も職工も大に自覺して欲しい。

教育に關する者に結核が何せ多いか不思議である、此の現像は日本のみで歐米には見られないと云ふ想像するに先生は終日教室で塵埃を吸つてゐる而かも數年十數年繼續される事實は満更結核と縁のない次第でもあるまいコルネツト氏（結核病の大家）の試驗によると公衆の出入する場所の塵埃をモルモツト（結核菌に感じ易き小動物）に注射すると三匹に對する一匹位結核病を起す況してや結核患者の病室から集めた塵埃は殆んど全部結核病を起すと報告されてある。

其他論すれば種々理由もあらうが兎に角統計上教員には結核病が多い又軍隊に結核が割合に多いことは注目に價する强健なる壯丁を引き拔いた軍隊に結核患者が出ることは怪しむ所である。

何んと云つても地方農村には結核が少ない併し青年が結核で死に調査して見ると都會に行つて學生となり職工となり徒弟となつて病氣となり國に歸つたと云ふ者が割合に多い都會に憧憬し成功を夢みつゝふら／＼と出かけ結核になつて歸郷する者などは愍むべきである。

田舍は天惠の遍ねき地である稼業に精勵すれば食ふに困らず體は達者で元氣に暮される。

第二　結核はどうして起るか

結核と戰ふには結核の起る原因を識らねばならぬ識らずして戰ふは野猪的の暴擧である識てすら結核は最も「アシライ」にくい敵である。

(イ)結核は結核菌から

火事は火から起ると同理で結核は結核菌から起る醫學の開けぬ昔は結核の原因を知らずたゞ病人の容態を見血を吐くから血痨咳嗽があるから痨咳削る樣に體が痩せるから痨瘵などゝ名つけたのである。

結核菌の發見　結核菌は有名なる細菌學の泰斗獨逸の「ローヘルトコッポ」先生が結核の病人から一種の稈狀菌を發見し研究の結果此の細菌が結核を起すのだと發表し此の細菌を結核菌と名つけた年は之れ千八百八十二年今から四十一年前である而して之の偉大なる發見に對しては全世界を通し一人の反對者を見ぬがまだ〳〵素人間では結核は體から持出す病氣で傳染病でなく遺傳病であると誤解し反對するものもあつて兎角本病の豫防に邪魔して居るのは心外である一日も早く此の誤解をとき協同して結核を征服し幸運なる人生生活に入りたいものである。

結核菌の大きさ

結核菌は細微なる細長き菌で長さ一、五―四、〇ミクレン巾は〇、四ミクレンで到底眼では見られぬ五六百位の顯微鏡で辛ふじて認め得る位の大きさである（ミクレンとは曲尺の三厘三毛の千分の一である）目方も又輕く一グラム（一匁の約四分の一）中には無慮三百五十萬箇を數ふと云ふ。

結核菌はどうすれば死ぬか

(イ)「日光」薄き痰層中の結核菌は直射光線で數時間で死ぬ厚き痰層では二三日間で死ぬ但し室內の如き分散光線の所では數日間乃至數十日間たゝなければ死なぬ暗き室內では數ヶ月間たゝなければ死なぬ要するに日光は結核菌の大敵で人間から見れば理想的の消毒藥である。

(ロ)「乾燥」暗い所で痰塊が自然に乾燥する場合は四五ヶ月戸棚押入篦笥の中などでは約一年位生きてゐる。

(ハ)「腐敗」物の腐りの盛んな夏などでは十數日で死ぬから痰を便所、肥溜などに棄て

ることは簡便でもあり且つ安全の方法である。

（ニ）「寒冷」結核痰を氷點下十度（攝氏）に長く置くも傳染力に變りはない之れ寒冷は結核菌を殺す力がないのである。

（ホ）「埋沒」結核菌は土中に埋沒して數ヶ月間生きてゐる「ジョットミルレル」氏は土葬の死體から二ヶ年の後に傳染力を持つた結核菌を證明したと報告して居る。

（ヘ）「消毒藥」

（一）昇汞水は結核痰の消毒には可成使はぬ

（二）三十三倍の石炭酸を痰に加へ丁寧に攪拌すれば結核菌は數時間で死ぬ併し只注加したのみでは痰塊の深部にある結核菌は死なぬから攪拌すると云ふことは消毒上大切の條件である又石炭酸に鹽酸を加へると消毒力は一層効力が強くなるから唾壺には之れを容れる方がよい。

（三）アルコールは痰の消毒には使はぬが手や器物などの消毒には便利である。

（四）フォルマリンは水を混ぜ加熱してフォルムアルデヒート瓦斯を發散させ室内、書籍其他貴重品の消毒に使ふ。

（五）十六倍のクレゾール石鹼液（普通リゾールと云ふ）は石炭酸と同じ効力あり使ひ方も亦同一である。

（ト）「熱」牛乳中の結核菌は攝氏百度の流通蒸汽では二三十分で死ぬ寢具、衣服に附着した結核菌でも一時間此の蒸汽に逢はせれば必ず死ぬ煮沸するも亦有力の消毒方法である衣服ハンカチーフ食器の類は沸騰してから三十分以上たてば結核菌は死ぬ。

要するに結核の消毒は日光と消毒藥と熱との三者を適當に利用するのである。

（ロ）結核菌の棲むところ

結核菌は人體中何れの所でも病氣を起す則ち肺臟に傳れば肺結核を起し腸に傳れば腸結核を起す肋膜でも腹膜でも腎臟でも淋巴線でも骨でも何んでも所擇ばず發病さすが其内です肺臟は結核菌が最も欣んで棲む所である。

（ハ）結核菌の侵入する門戸

結核菌の侵入する門戸は大體下の二方面である。

一、は空氣を介者として氣道から侵入する。

二、は飲食物を介者として食道から侵入する。

「病室」結核患者の病室の空氣中には結核菌が居る殊に其病室が密閉されてある場合である コルネット氏の試驗によれば室内敷物の上に結核痰を吐かせ數日の後掃除してわざと塵埃を立たせ床面から種々の高さに四十八匹の「モルモット」を置き此の塵埃を吸入させたら四十七匹迄結核病に罹つたと報告した倘氏の試驗では密閉された室内で結核患者が咳嗽すれば前方五六尺の所迄結核菌を含む飛沫が散り且つ三十分間内外其室内に浮動して居ると。

如此事は獨り病室内のみでなく公衆の集散する停車場、劇場、其他之れに似た場所にあつても同一である彼の結核患者が地上に或は汽車、電車の床面に痰を吐き之れが踏み蹂じられて塵埃となり舞ひ立つ時之れを吸入することありとせば頗る危險である實に吾々は此の危險なる塵埃を吸ひながら生活するのである。

序に記す要あることは母親が結核であるとき此の母に保育される小兒の運命である此の母の乳に依つて育てらるゝ乳兒此母に抱寢さるゝ小兒は到底結核の傳染を免かる事は出來ぬ事實家族中に一人結核あれば家族中の殆んど全部に結核菌が傳染するはビルケー氏皮膚反應の證明する處である（後述）而して此れを見る世間の人は成程結核は遺傳病だと云ふのである。

飲食物

結核患者が飲食物を取扱へば結核菌は其の飲食物に傳る之を飲み之を食ふ人は或は腸に或は扁桃腺に（咽の兩側にある）結核菌が附着して腸結核或は淋巴腺結核を起す

又牛の結核は人間に傳るから牛乳を飲む者は注意せねばならぬ。

以上は結核傳染の二大門である斯くして人體に傳染した結核菌は小兒期なるときは主に淋巴系統に入つて腺結核となり少年期から青年期になると肺結核を起すのである。

茲で一寸安心の爲述べて置くことがある夫れは結核菌が傳染すれば何時でも人は皆結核になるかと謂ふに實は皆結核になるのである併し結核患者には皆なるのでない患者になるのは極めて少數で謂はゞ九牛の一毛である恐らく總べての人は結核菌を吸込み又は食べぬ者はあるまい併し健康で病人でないのは何故であるか之れ自己の所有する體力が結核菌を押へつけて活動させず所謂潜伏結核の下に摺伏してゐるからである而して若しも何等かの動機で此の體力なる重しが取り除かれ或は輕減される等のことあれば結核菌は得たり賢しと頭を上げ病氣を起すのである之を譬へるなら冬が來て寒くなれば蛇や蛙が

冬眠のため穴に隠れ春が來て暖かき陽氣となればのこ〱と穴から這出るのと同じで體力の增進は即ち冬で結核菌は潛伏する之れに反して體力の衰弱は春で結核菌がのこ〱と頭を上げるのであるから結核の根本的豫防は一に體力の增進に俟つべきである。

結核に遺傳なし

親が結核で死し子が結核で死し兄弟も又結核で死し同族皆結核で死んだならば世人は結核は遺傳する血統を引くと思ふは一應無理からぬ次第である併し生れたての小兒に就てピルケー氏の皮膚反應試驗をしても結核の兆候がない之を陰性と云ふ併し其兒が二歲となり三歲となれば此の反應が現はれて來る。（陽性）此の事實から今日では結核は必ず生後に傳染するもので遺傳するものでないと云ふ事になつて居る只結核を病む父母から生れた子は結核に罹り易い孱弱なる體質（結核素質）をもつて生れ來る關係から恁ふしても結核に罹り易い理であると同時に一面家族中に結核患者あれば勢い結核菌傳染の機會が多くなるとの二つの理由から其血族中から患者が續發し恰かも遺傳するが如き有様を示すのである。

結核素質とは何か

此の素質の所有者はどうしても結核に罹り易い因緣を持つて居る此の素質の所有者は大體男なら好男子で女なら別嬪である則ち（一）皮膚が薄く弱く色白く羽二重式である（二）頸が細く長く（三）胸廓も亦狹く長くある（四）腰は所謂柳腰で（五）丈はすらりと痩型で女なら風にも堪へぬ風情がある男子ならば御曹子然たる貌である且つ此の素質者は（六）概して神經質で敏捷で才子で悧巧者である（七）而して時々不明の熱を出す（八）神經が興奮して不眠症などになり易い。

反對に結核に緣遠き健康體質の所有者は何れかと云ふに（一）氣が利かぬ（二）體は肥つて居る（三）色は黑く皮膚は厚く（四）頸は太く短く（五）胸廓も廣く厚くある之れを東洋流に評すれば男子なら武骨者女なら醜婦の部類に屬するのである。

昔から才子多病佳人短命などの語あるは此の結核素質所有者で說明が出來る故に東洋流の好男美女は實に結核菌の緣者である然るに今日之れを悟らず金持連は結核菌持參の嫁さん婿さんを貰つて喜ぶのである此の喜は悲び哉束の間で軈て生別死別の憂き目を見るもの世間決して乏しくないよし一歩を讓り結核にならぬとも生れる子供が蒲柳質で體格も亦劣位である要するに體力の優勢は最後の勝利である以上は健康の尊重は結核豫防

の問題のみでなく子孫長久の基である。

西洋美人の要素は日本と正に反對である肉つきよく血色麗しく體格優良に元氣活潑で體も心も健康なる者を美人とする成程眞の美感は斯る要素の所有者でなければ起るものでない日本式の色白は實は貧血であるしとやかなる動作は實は不元氣の致す所であるヒヨロ〳〵して體重の輕いのは實は榮養不良の爲である自今結核豫防を國民的に解決せんとするならば宜しく素質の向上に努むべきである夫れには先づ此の誤れる觀念を一掃し榮養と運動との調和に努むべきである。

學者は云ふ世の所謂結核素質者なるものは其實結核患者である即ち結核あるが爲めに身體の發育を阻碍され結核素質型となる而して此の者は結核病に罹り易いと云ふが罹り易いのでなく己に罹つてゐるのだと又肋膜炎を患ふと後で肺結核を起すこと多きは世人の知る所だが之れとても肋膜炎其ものが結核菌から起るのであるから後で肺結核を起すは當然である否潜伏して居た結核菌が肋膜炎を起したのであると論ずるのである。

斯く論ずるならば此の結核素質の所有者は失望するであらう神經過敏者、結核恐怖症者等は落膽するであらう然れども安心あれ天は無闇矢鱈に人を病ませ或は殺す者でない奈如に體質が惡るくとも奈如に結核が潜伏するとも日常の衛生に油斷なく體力の保全に努むるならば斷じて結核は起るものでない又結核菌が潜伏しあるとも病氣にさへならぬならば少しも心配する必要はない重ねて述べるが只結核體質の所有者は健康體質者と較べて結核に罹り易いと云ふまでゝある。

結核の成立

結核の成立するには(一)結核菌の傳染することと(二)體の防禦力(體力)の薄弱となることである不幸にして以上二條件が具備すれば茲に結核が成立する之に反し防禦力の強大なるものは結核菌が傳染するも防禦力の爲めに結核菌は包圍され壓伏されて悉ふすることも出來ず無害狀態に蟄居するので之れを潜伏結核と云ふ併し此の場合結核菌は決して死なず生存力は立派に保存してゐるから若しも結核菌にとり有利の條件(人には不利)が加はると結核菌が擡頭し茲に結核が成立するのである今人にとり不利なる條件とは

一、感冒に罹ること

二、病後の衰弱甚しきこと

三、出血其他にて貧血すること

四、榮養の不良となること
五、無理の働きを續けること
六、產後の肥立惡るきこと
七、虛弱者で結婚すること
八、精神を勞すること
九、結核を極端に怖かること
十、結核菌の傳染を反復すること

以上十ケ條は結核病成立上不利なる要項であるが畢竟するに此等は衰弱に依る體力の減退である謂ふ迄もなく結核豫防の眞髓は體力の如何にあることを深く記銘して貰ひたい尙此結核成立の條件は直ちに逆用して結核豫防の法則とすべきものである。

小兒の結核

小兒の結核は大人の結核と其の趣を異にする今小兒結核の成立を考へると從來やり來つた結核の豫防方法は改めねばならぬ成程結核は傳染病である併し小兒期の結核豫防を等閑にして靑壯年者を目標とする結核豫防のみでは滿足できぬ又結核は小兒期の傳染病で成人期のみの傳染病でない只成人が多く肺結核のため死するから世人は成人期が最も多く結核に襲はれると思ふが眞實結核は多く小兒期に傳染するのである只小兒期は肺結核を起すことが少く之が成年期に持ち越されたと見做される其の證據はビルケー氏皮膚反應で證明ができる。

ビルケー氏皮膚反應と屍体解剖

ビルケー氏皮膚反應とは結核菌から採つた「ツベルクリン」を種痘する樣に皮膚に點滴し針で微に創をつけて置くと早きは數時間遲きは二十四時間以内で赤く腫れ十數時間持越される之を陽性反應と云ふ此の發赤が二十四時間以内に消失すれば之を陰性と云ふのである。

此の反應の價値は殆ど絕對的である此の反應の陽性なる者は鬼をも挫く體格の所有者でも其の人の體內何れかに結核が潛伏することを證明するのである。

死體解剖の所見とビルケー氏皮膚反應の成績とは誠によく一致する生前健康なりしもの又他の病氣で死だ者とを問はず屍體を解剖して見ると其體何れかの處にか結核變化のあるもの或は治癒の痕あるものを認めるのである。

小兒結核表

小兒年齡＼檢査方法	ゴーン氏（百分比）普通屍体ヨリ結核發見數	ツベルクリン皮膚反應檢査 ピルケー氏 陽性百分比	ガンクホツネル氏 陽性百分比	ハンブルケル氏 陽性百分比	モンチー氏 陽性百分比
滿一年	一七	二	一二	九	九
三年—四年	三〇	一三	二七	二三	二七
五年—六年	三四	一七	四七	三六	五一
七年—十年	三五	三五	五七	四七	七一
十一年—十四年	五三	五五	七〇	五一	九四

備考　此の試驗に供した小兒は診察上少も異常なかりし健康小兒である。

此成績に依れば滿一才兒で最高一割七分四才となれば三割六才となれば五割强十才となれば七割强十四才となれは九割四分までは潜伏結核を證するのである人は病の器と云ふが此の表では結核菌の器である。

今日では此の反應は學理的の興味こそあれ診斷上には餘りに參考とならぬのである何となれば百人中九十人迄は陽性反應を現はすからである。

第三　結核の容態

結核の容態は病氣の時期により差がある。

(イ)時期の分類

「第一期」　カタール期又は初期とも稱し病部が炎症を起す時代である。

「第二期」　浸潤期又は中期とも稱し病氣が完全に形成された時代である。

「第三期」　崩潰期又は末期とも稱し病部の組織が崩潰して空洞を形成する時代である

第一期は自訴的症狀を主体とし輕微なる病部の症狀を副体とする即ち病部の變化は自訴的症狀と較べて結核があるか無いかを疑ふ位の程度で價値は少ない反言すれば病人の訴へは、かなりあるが診察すると左程の變狀を認め得ぬものである。

第二期は病人の訴も强いが診察すると著明の浸潤或は崩潰の初まりなどが認めらるゝのである。

第三期は空洞の形成と病氣の末期である。

以上の分類は固より大体で病氣の輕重の判定にもならぬなぜかと云ふに第一期でも其の病

者が重ければ生命に關することもあり之に反して空洞を形成しても病勢の進行が停止すれば癒り得るので老人性の結核などは斯る轉歸をとる場合がある。

初期の容態

初期の容態は肺結核を早期に自覺し且つ診斷するに必要である。

一、認むべき原因なきに体重の減ずるもの。
何等か惡いと認め得ぬに体重がジリ〳〵と減少することである。

二、慢性咳嗽が續くもの。
風を引き氣管枝カタールを起したとか喫煙家で咽喉が惡いとかは格別である肺結核の咳嗽は一体に無力性である。

三、盜汗の續くもの。
盜汗とは寢汗のことである併し寢汗は過劇に運動して疲れた時は一時的に出ることもある。

四、黄色粘稠の痰あるもの。
健康なる人の痰は硝子樣で透きとうつて居る又分量も少なく格別の咳嗽もない然るに結核患者の痰は黄色膿樣且つ粘稠である。

五、理由なきに食慾減じ疲勞を覺え又惡寒あり女子なら月經の閉止等があるもの。
此の理由なきにと云ふことが必要である理由あつて以上の容態があるのは別である。

六、日晡潮熱のあるもの。
此の熱は夕方に出る熱である三十七度以下が大人の健康体温である夫れが夕方に或は夜になると三十七度二分とか五分とか强いときは三十八度位まで出ることがある但し温き食をとつた後とか運動した時などに一時昇る体温は例外である。

七、神經が過敏となるもの。
神經衰弱の容態は結核初期に現はれる近來物事が氣にかゝりいら〳〵し又ぼん〳〵腹を立ち不眠となり扱ひにくい性格に變ずる樣になる或る學者は神經衰弱は結核の初期だとすら云ふて居る。

八、血痰のあるもの。
血痰は初期の患者よりは寧ろ中期の患者に出る併し初期患者でも極めて少量に血が痰に混つて出ることがある併し鼻の出血或は齒齦から出た血を洗面時など發見して

驚くこともあるから再三注意して決すべきである血痰は少からず患者を驚かすが之が警鐘となつて治療したため反而幸福となる場合もある。

以上の八容態の内一つでも二つでも有とするならば速かに醫師の診察を受け早く治療に取りかゝるべきである肺結核は癒るものでないと思ふ人もあるが初期に充分に治療すれば癒るものである癒らぬとするも病勢は停止し輕快するものである。

中期及末期の容態

此の期に於ける重なる容態は

一、熱
二、盜汗
三、咳嗽
四、瘦削
五、咯痰—血痰—咯血
六、呼吸困難
七、聲音嗄嘶
八、脉搏の増加
九、不眠

等である其の他色々の容態もあるが此は謂はゞ副たる容態であるから略す。

四、熱に就て

熱は主要の容態で大切なる意義を有するものであるから診斷上にも治療上にも正確に測るべきである大人にして三十七度以上は有熱である但し小供は一二分位高くとも輕るく〳〵しく有熱と斷定はできぬ又結核の熱は突然に出て急に降ることもある或は夜間のみ出て日中無熱のこともあるから診斷の時は正確なる同一檢温器で二時間置に測り且つ數日間續けて檢すべきである又婦人が月經前に熱を出すときは結核に疑を置けと云ふ人もあるから是れ亦診斷上の參考となる。

結核の熱は日晡潮熱を特徴とすることは前も述べた通りである而して此の熱の出る理由は結核菌の毒素たる「ツベルクリン」の仕業であるが病部に連鎖狀球菌、葡萄狀球菌其の他の雜菌が混ると高熱を出すから肺結核患者は常に清淨なる氣中に靜臥し雜菌多き不潔氣中に居てはならぬ。

熱は病勢の消長を測る「メートル」である即ち熱の高くなるのは病氣の活動（進行）を意味し熱の降るのは病氣の停止を意味するのである。熱に神經性のものがある吾は結核ならずやと恐怖するものは殊に婦人などは結核でなくとも熱を出すことがあるから念のため斷つて置く。

二、盜汗に就て

寢汗は結核に特にある容態である寢汗の強弱は病氣の進行と一致する即ち寢汗の強は病氣の進行である。

三、咳嗽に就て

咳嗽は結核患者に著明である併し初めから咳嗽の少なきものもある若き婦人などに之を見る。

四、瘦削に就て

生活狀況に變りなきに段々瘦せて体重が減るものは病的である体重と熱との關係は正に反對である熱高ければ体重減じ熱降れば体重增す体重は毎週一回正確に測り若し減じたならば益々安靜に臥床するのである斯くすると熱は降り体重は增加し病氣の進行が停止す。

五、咯痰（血痰咯血）に就て

痰は多く咳嗽に伴ひて咯出される第一期の痰は膿樣黃色だが第二期になると之れに血を混ずることがある之を血痰と云ひ多くの肺血管が傷つけられると多量に出血する之を咯血と云ふ血痰や咯血は患者に失望恐怖など起させて治療上の妨げとなる。

六、呼吸困難に就て

結核患者の呼吸困難は些細なる運動談話咳嗽などから起る但し初期には殆んどなく重症末期のときに著しいものである。

七、聲音嗄嘶に就て

患者は多く夜間に聲が嗄れる喉頭結核になると全く聲が出なくなる喉頭結核は咳嗽が激しいから患者も苦しく傳染の危險も頗る多いものである。

八、脉搏增加に就て

熱あるとき脉數の增すは當然であるが肺結核の時は熱に關係なく脉が多くなる而して此の脉は軟弱である。

九、不眠に就て
結核菌の毒素たる「ツベルクリン」のため神經が興奮し不眠に陷るものである不眠はつらきものである早く眠らんと焦せればあせる程神氣が昂ぶり眼はさへて眠る處でなく終には懊惱して種々の忘想を抱く此の忘想の內容は決して樂觀的の者でなく悲觀的のもののみである。

(ロ)結核の變型

結核は必ずしも規則通りの容態を現はすものでなく變つた容態を現はして患者を惑はし醫者を苦しめる下に記す病氣など其內の主なるものであらう。

一、貧血
若年者殊に女子は初期結核が萎黃病或は貧血症の下に潛伏して倦怠疲勞沈鬱心悸昂進消化不良などを訴へつゝ長く診斷のつかぬことがある。

二、月經困難
若年婦人の初期結核が單に月經困難の假面の下る隱れて居ることがある斯る婦人は所謂結核素質の所有者で体格が不良である。

三、神經衰弱
肺結核患者には神經衰弱がつきものである。

四、神經性消化不良
若年の女子貧血者神經質者には結核の初めに胃病の容態たる食慾不振嘔吐心窩部の壓重消化不良など起すことがある。

五、喘息
結核が喘息の容態の下に隱れる併し此の喘息は發作のない時でも呼吸困難があるから痰を檢査すれば判る。

六、肋膜炎
結核が肋膜炎の形式で發する此れは案外多いのである肋膜炎と結核は因果關係がある結核患者で肋膜炎の既往症なきものは稀である又肋膜炎があつても自分でも感づかす感づくとすれば肩硬り胃病頭痛位の容態である極めて輕き肋膜炎は案外澤山にある而して此の程度の患者は醫者が診察しても大した異常がないのである。

七、疑似結核

結核の容態を訴へながら非常に良好の經過をとる患者がある併し肺に於ける所見は殆んど認められぬのである此の經過をとる患者は指物師書工裁縫師店員等の若年者に見らるゝ訴ふる容態としては全身の倦怠体重の減少盜汗乾咳胸痛等である。

八、老人性結核
老人にして色蒼く少しくむくみ癌腫ならずやと疑はれた者及生前心臟衰弱肺氣腫などゝ診斷された者であつて解剖して著明の結核なるに驚くことがある全く老人の咳嗽喀痰營養不良などは老人持前のことゝして吾も人も疑はぬ者は隨分にある之れ老人の結核は頗る經過が緩徐で苦痛も少なく容態も輕いから誰も氣付かぬものである。

九、肺粟粒結核
此の症は潜伏狀態にありし結核が或る衝動から急劇に結核菌が全肺に蔓延して起る病氣である此の時は熱が劇しく昇り呼吸困難が甚だしく數日で死ぬ。

第四 療養

結核を療養するには金と歲月とを要するから金持ならぬ人々は充分なる療養は不充分であるから病氣の經過も短かく癒り方も惡く且つ悲慘の出來事が多い以下述べんとする療養法は其標準を中產階級の患者が自宅で療養する程度としたので實行し得ることに重きを置いたのである。

(イ)自宅療養の設備

一、「病室」病室は空氣新鮮に日光充分に眺望の佳なる處に選定すべし。

二、「空氣」患者に對する良藥は新鮮なる空氣と麗かなる日光とである其病室にして眺望も佳なるならば結構である是の故に人家稠密で而も工場あり煤煙の多き處は不適當である一口に謂へば療養は都會市街は不適當で閑靜なる田舍が良いと云ふ事である。

三、「日光」日光も亦空氣の如く患者に對する良藥である故に病室は患者の專有とし南に面し日光が長く照らさねばならぬ結核患者を隔離することは治療上にも豫防上にも必要である病室は其家でも最も上等の室で且つ家人客等が出入せずにすむ處がよい南面すとは日光を慾深く貪らんとする目的である日光と仲違ひしては治療も出來ず豫防も出來ぬ日光の效力は新陳代謝機能を高め精神を爽快にして食慾を振はせ且

つ結核菌を撲滅するものである。

四、「横臥設備を爲すべし」横臥設備は患者が体力を消費することを少なく安静狀態に在りながら新鮮なる空氣と麗かなる日光とを思ふ存分に享けんとする目的である安樂椅子、寢椅子、或は廊下椽台などに布團を敷き衝立を建てゝ日光の直射を避けながら鳥の飛ぶのでも打ち眺めつゝ悠々然と自然界に親しむのである併し風は禁物であるから風吹く日は室内に籠城すべきである横臥療法は極めて有効である宜しく醫師と相談して實行すべしである。

五、「正確なる檢温器を用意すべし」檢温器は正確なるべし然らざれば間違を生じて無益の心配をする肺結核の熱は不定であるから有熱時には三時間毎に無熱の時は一日三回以上定時に檢温し數日間引續き無熱ならば初めて無熱と決定するのである。

六、「体重秤」体重は一週或は十日毎に同時同狀態で測る二三十匁の体重增減は敢て意とするに足らぬが百匁以上は意味がある体重の增加は善兆である若し減量したならば未だ注意が足らぬのだと見做し一層奮勵治療すべきである。

七、「唾壺」蓋ある唾壺二三個を用意する之れ交互に使用する爲めである壺中には石炭酸水、リゾール水、場合により曹達、石灰末等の內其の一種を入れて置き唾痰は必ず之れに吐くのである唾壺の消毒は曹達生石灰末なるときは熱湯を一杯に注いでかきまわし蓋をして數時間其のまゝに置き後で便所に棄てる初めから消毒液を入れ置いた唾壺は其まゝ便所に棄てる。

結核患者が吐く一塊の痰の中には三億の結核菌を含むと謂ふから患者の唾痰を嚴重に消毒することは必要である若し此の痰の處分が充分に出來るならば結核は他人に危險はないと云ふても差支ない位のものである。

八、「食器類」患者の使つた食器類は其都度煮沸して消毒すべきものであるから瀨戶物類が良い又患者の食殘した物は看護人などが食べてはならぬ。

九、「寢具及衣類」二組を用意して晴天の日は交代に日に干すべきである場合に依ては蒸汽消毒或は消毒藥の撒布若しくは洗濯など行ふて常に清潔なる寢具を用ふる樣心掛くべきである世間には結核患者の使つた寢具衣類を消毒もせず古着商、屑商などに賣却するものもあるが此れは衞生を無視した不德なる行爲である。

十、「病室の整頓と掃除」病室には無用の器具類を置かず常に整頓する又掃除は塵埃を

立たせぬ様に注意し可成消毒藥の濕布で拭き取る様にするばかりでなく掃除する者はマスクを用ひ終つた時は顔や手足を洗ふ様に尚注意するなら「ウガヒ」をするのである。

(ロ)患者の心得

病氣は患者のものである癒すも癒さぬも患者自身の心得一つにある反言すれば病氣は患者自身の体力で治すべきで藥ばかりに依るべきでない昔から一に看護二に藥と謂ふが誠に適當の語である。

一、談話時は白布にて口を蔽ひ咯血ある時は絶對に談話を禁ずべし。

結核患者は談話時結核菌を吹き出すことがあるから此の危害なからしむるため談話する時はガーゼ、ハンカチーフの類で口を蔽ふのである又咯血ある時は絶對に面會を禁じ且つ談話を禁する而して此の口蔽は時々消毒する。

二、咳嗽時には特に口を蔽ふべし。

咳嗽時は結核菌が飛沫について飛び出す恰も雨霰と爆彈が飛來る戰場の如くであるから之れに接近する者は危險である故に咳嗽時口を蔽ふことは患者として必ず勵行して欲しい昔配膳する時紙を啣へたるは之れは息をかけぬ爲めで衛生上結構である斯る結構の習慣は患者のみでなく一般に平素勵行する様にしたい。

三、含嗽は度々行ふべし。

「ウガヒ」して口内を清潔に保つことは健康者と雖も必要である況んや患者たるものは特に必要である口内を清潔にすると食物が美味しくなる又喉頭結核豫防の助けにもなる含嗽水は食鹽水でも重曹水でも硼酸水でも鹽酸加里水でも何れでも宜しい但し含嗽水は唾痰と同樣に消毒して便所に棄つべきである。

四、痰は嚥下せざるべし。

子供は痰を嚥下し咯出せぬものであるが大人でも隨分に嚥下するものである患者で痰を嚥下すると腸結核を起す腸結核を起すと飮食物が充分に攝れぬから萬事休する又痰を街路や甚しきは汽車電車の内其他何處にでも吐く人がある斯ることは衛生を知らぬ野蠻の行爲である外出先で唾壺がなければ紙に取り便所に棄てる紙がなければ溝渠に溝渠がなければ田の中畑の中等に吐くとせば他人に危害を及ぼすことが少なくてすむ。

五、患者は絶對に醫師の命に從ふべし。

患者と醫師は異体同心でなければならぬ醫師にして患者を愛せず患者にして醫師を信用せざるならば結核は癒すことは出來ぬ一旦身を醫師に委せた以上は絶對に服從すべきである醫師も又一旦引受けた以上は必ず癒してやると云ふ熱心とが相合致して玆に大なる力となり勇氣となつて終に最後の勝利をかち得るのである理解なき患者は結核の病名を下さるゝと死の宣告と思ひ意氣消沈青菜に塩の風情となる斯る患者は精神的に已に死んだのであるから病氣は益々進行するのみで謂はば攻守地を轉じ敗軍の陣形となつたので到底勝利の見込なく只死あるのみである此の哀れにも氣の毒なる風情を見る事のつらさに醫師は先づ患者慰安の方便として結核と認めながら一時氣管枝炎とか肋膜炎とか乃至は神經衰弱　症とか云ふ場合もある之れ患者が結核を極端に恐怖しあるからである併し結果からすれば斯る嘘れる方便は患者を油斷させて治療を怠らせるから親切でない故に患者たるものは結核を理解して恐怖もせず不名譽とも思はず失望もせず落膽もせず偏に治療と豫防とに熱心せられんことを望むのである。

六、病は變化す不良を憂ゐす善徴に油斷すべからず。

結核の治療には年月を要する一二年にして癒つた樣になるが此れは幸に病氣が停止した迄の事で眞の全癒でない眞の全癒とするには少くも數年を經ても變りがなければ初めて全癒したと謂ひ得るのである而して此の全癒に至る迄には病氣は一進しては惡徴を呈し一退しては善徴を呈し悲嬉交々幾度か繰返すもので丁度天氣に雨の日あり雪の日あり風の日あり快晴の日あるが如くであるから患者たるものは深く此點を諒解して惡徴あるも悲觀せず善徴あるも油斷せず專ら自重を旨とすべきである待てば海路の日和もある。

七、樂天的なるべし。

身は結核患者として生死の境に彷徨するとき樂觀し能ふ者は恐く少なからむ併し結核の本性を知り且つ強き信念を有する者は從容其度を失はざることを得べし昔の名僧が巳れの死期を知れる類は修養から得た感應であらう凡ての病氣は心配する程重くなるものである結核の如き特に然りである之に反し樂觀は利益がある要するに人間は肉体的にのみで活き得る者でない靈的にも活きねばならぬ況んや結核の如き慢

性病に罹つたときは堅忍不抜の覺悟を持ち物事をクヨ〳〵せず萬事を樂觀的に解釋し悠々治療に親しむべきである。

八、強固なる信念を持つべし。

結核の療養には不抜の信念を要する特に癒ると云ふ信念癒すと云ふ信念を要する病氣に負かされ意氣阻喪し悲觀するものは傍から奈如に熱心するも結局は不結果である之に反し假令病氣は重くとも患者が固き信念の下に必ず癒る癒すと云ふ大勇猛心があるならば存外早く全癒するものである。

九　肉慾を遠ざくべし

結核の治療に肉慾程妨げするものはない其くせ結核となれば肉慾が盛になるから之を愼まぬと經過を惡くし死期を早むる彼の体質薄弱者とか肺尖カタールの患者などが結婚して性的生活に入ると急に結核が擡頭し或は分娩後潜伏結核が進行を起すことある例ば澤山にある要するに結婚は自巳体質に缺點あるものは之を避け須らく獨身生活を爲し生存に滿足すべきである。

（八）看護人心得

一、看護人は專從たるべし。

看護人專從ならざるときは療養上患者に不利あるのみでなゝ看護のため幾人も出入することは傳染の虞があるからである看護人たるものは患者の氣合を會得し且つ年齢は可成年寄がよい之れ年寄は結核に感染し難く且つ親切で思遣りが强いからである。

二、看護人は注意深かるべし。

看護人は注意力觀察力の敏なるものほど宜しい注意力に乏しきものは病氣の變化を看過し若くは大變兆の前驅を氣付かぬからである例へば血痰の如く極めて微量と雖看過せず注意するならば軈て來る大咯血を豫防し得るのである又体溫の如き一二分の微と雖昇つたならば其の原因を探究し運動の爲か食物の爲か夫れとも精神興奮の爲かと種々考慮して最善の方法をつくし得るからである。

三、看護人は言語動作に注意すべし。

看護人の一擧一動は患者に強き衝動を興ふるから精神は常に快濶に言語を愼み行動は靜雅に不快も顏に現はさず偏に患者を慰安し勇氣を皷舞し樂觀させ同情して患

者の心を自分に引付け絶對に信用させる樣に務むべきである病氣の容態が面白からず心配になる時は尙更注意して患者に覺られてはならぬ患者の心理は丁度難船のとき乘客が船長の顏ばかり見る心理と同じである結核患者は神經が過敏であるから細事と雖も非常に強く響くものである。

四、患者と正面すべからず。
患者と正面することは避けねばならぬ正面し談話する際若し咳嗽などすれば直接結核菌を吸入する危險がある故に看護人面會人などは患者の頭部か或は足部に片寄つて座すべきである。

五、病室の掃除換氣消毒方法等は細心なるべし。
病室は濕拭法で掃除し空氣の交換は直接に戶障子を開放せず隣室を開放し其の隣室の方の病室の一部を開放するのである又寒き時は煖室に努め春夏の靜なる日は直接に病室を開放する場合もある室內消毒も又時々行ふべきである。

六、患者の慰安と說諭
患者は時々拗ね出して看護人を困らすことがある敎育あるも無きも老人も若年も同じである斯る時は宜しく同情し專ら慰安し決して理窟づめにしたり制したり。からかつたり立腹したり顏色などを變へたりしてはならぬ若し拗ねて治療上の妨害となることあらば落付いた時に懇ろに說諭して悛めしむるのである患者の云ふ事は人が云ふのでなく病氣が云ふのであるから腹を立つ樣な看護人は未だ一人前でない。

七、一事をなす每に消毒すべし。
看護の爲手を使つた時は其の都度消毒する夫れには「アルコール」を脫脂綿に浸した所謂アルコール綿が便利である之れは結核患者の看護のみに限るのでなく總べて病人を看護する場合は手を消毒すべきである。

八、睡眠中は靜かにして何事も爲すべからず。
睡眠程大切の者はない之に依つて患者は体も精神も休まり疲勞を取返すのである故に一分間でも二分間でも睡眠は永くさせ目覺させぬ樣にする夫れには靜かにすることで檢温でも藥用でも食事でも何物でも睡眠中は見合せて置くべきである又何病の患者でも睡眠が十分出來る樣なら癒ること請合である。

以上は看護上の注意である固より之れだけで總べてをつくした次第でない一般の家

庭では病人が出來ると大概其内の母若くは子女が看護婦となるが扨て其看護婦さんは看護法を知らぬ況んや結核の如き何ふして傳つるか知らぬ者すらありて續々罹病し一家を擧げて全滅した悲慘事もあるから家庭看護の必要を痛切に感ずるのである。

(二)療養方則

(イ)營養療法　營養療法は結核の根本的療法である結核にまだ特效藥の發見されぬ今日に在つてはひたすら患者の營養を佳良ならしめて体力を盛んにし結核菌を壓迫すべきである廣い意味の營養は單に飮食物のみのことでなく日光空氣も又立派の營養物である。

一、食慾の許す限り滋養物を取るべし。

營養療法には第一に滋養物を多食することである患者は結核菌なる敵と自己組織の細胞と劇戰中であるから細胞なる軍隊にドシ／＼兵糧を輸送して奮戰させねばならぬ兵糧不足し細胞軍が疲れるゝ戰は敗けである併し食慾振はざるに無理に滋養物を多食するは結局有害に終るものである何せなれば胃腸を損じ下痢を起すからである故を以つて食慾の許す限りと云ふ條件が大切である此の意味から胃腸が健康で相當に食慾ある患者は幸である食慾不振の時は止むを得ぬから少食して安靜に就床し熱の下るを俟たねばならぬ熱が下れば自然に食慾が起る又食慾を振はす方法としては時々食品を變換して調理法に工風を擬らすことも一方法である。

二、胃腸の健康を保全すべし。

胃腸の健康は萬病豫防の利器である胃腸の健康は食慾を「メートル」として測るべきである胃腸は汽關車である吾人の活力は食物から取り入るゝのである胃腸の健康法は食慾に敎りつゝ食するので飽食し間食して胃腸を虐待してはならぬ度々虐待するときは反動として消化不良を起す斯くして胃腸を傷ふは恰も汽車にして汽關車を損じたのと同樣で結核の營養療法は根底から破壞されてしまふ。

三、食物は患者の欲する處によるべし。

人は混食であるから肉類も野菜類も穀類も皆必要である餘り片寄つた食物のみ食べては營養を害する併し人には好き不好きや習慣などもあるから之も無視してはならぬ假令ば牛乳は滋養物として完全の物だが嫌ひの人に無理に強ひてもだめである

肉類も又同様である之に反し理窟上有害の物でも患者が之を好み習慣してゐる場合は案外無害のこともある只通則として守らねばならぬことは消化し易き食物を選ぶことである就牀すると運動がないから普通の固形食では胃腸が負けることがあるからである。

四、滋養製品は食慾ある患者に必要なし。

肉類血液牛乳雞卵などから製した物で彼のペプトン、ソマトーゼ、ラクトスターゼ、ヨーグルト、ヘモグロビン、グリコナール、ブルトーゼ、此の外に澤山あるが此等は藥品でない世間には誤れる養生家もあつて無闇に高價なる此等製品を購買使用して達者になつたと得意がるが苟くも三杯飯を食ひ能ふ者で如此不經濟の製品を購る必要はない此の筆法からたとへ結核患者でも相等に食慾ある以上は殊更此等製品を用ふる必要はない併し食慾振はず体力が衰ふる場合は不得止此等製品を用ひて滋養を補給すべきである。

五、食慾不振は神經性消化不良に原因することあり。

食慾不振は容易ならぬ不利であるから患者たるものは極力食慾の保全に務むべきである食慾不振の原因としては病前より胃腸の不健康なりしもの若しくは飽食間食の癖もあるが往々にして初期結核患者には神經性に食慾不振を來すことがある神經性食慾不振は心配、煩悶、沈鬱、悲觀などから來る場合が少なくないから深く此點に注意し家人も患者も看護人も氣を立直して此の弊に陷らぬ樣心すべきである。

（ホ）空氣療法

一、新鮮なる空氣は一種の滋養物なり。

新鮮なる空氣は之れを室外に需めざるべからず室内空氣は刻々不潔となるから換氣に注意し室外空氣を取り入れざるべからず工場附近の空氣風吹く日の空氣塵埃舞ひ立つ市街地の空氣は到底新鮮でない之れに反し田野山林の空氣は頗る新鮮である新鮮なる空氣は血液を清淨にし組織の榮養を良くし精神を爽快にし組織細胞の活動を促すから結核の治癒を速かにする一種の滋養物である。

二、不潔空氣は肺結核を惡くする。

創を被けた時其部を清潔にして繃帶を施せば創は早く治る之れに反し創を不潔にし

繃帶も施さず放置すれば化膿して痛み且つ熱を出す今結核は肺に於ける一の創で呼吸の度に其面を空氣が出入して居るから若し其空氣が不潔であると此の創口に多くの細菌を附着させ熱を出し創は倍々擴がるのである故に患者の吸入すべき空氣は絶對に清潔で細菌が少なくなければならぬ此の理から不潔空氣は病氣を惡くし清潔なる空氣は病氣を良くするのである。

三、風は絶對に禁物なり。

風は空氣中に有形物（塵埃細菌を混じ）不潔にするから此の空氣を吸入する患者は細菌塵埃に依り氣道粘膜を刺戟されて咳嗽や喀痰を多からしめ病氣は益々惡變するのみである尚ほ風は急激に体温を奪ふから感冒に罹る虞れもある之れに反し寒冷は結核患者には案外に支障は少ない世間では風を恐れず寒氣を恐れるが此れは誤である。

（へ）安靜療法

一、自体の安靜は治療上の必要條件なり。

安靜とは運動せざることである然るに患者にして散歩につとめ若くは勞働に近き運動をなすものがある而して曰く運動せざれば害あり食進まずと大なる誤である成程運動は健康者に必要であるが病人には有害である運動すれば体力を消費して疲勞と痩削とを來す結核の療養は榮養療法を根本主義とする點から稽ふるならば一グラムの体量も貴重である又運動すれば呼吸作用が盛んとなり肺の膨脹收縮が強くなる從つて結核病部の肺も引張られるから動もすると喀血など來す彼の肺尖カタールあるもの若しくは潜伏結核などあるものが深呼吸激運動などして大喀血を起したり肺粟粒結核を誘發した例もある。

二、安靜は解熱の良法なり。

運動は体温を上昇さす況んや結核患者なら尚更の事である熱ある時は絶對に安靜を守り絶對に就牀するのである斯くすると熱は段々に下る。

三、熱は病勢のメートルなり。

熱が段々に下るのは病氣が段々に進行を止める徴である一ヶ月無熱なれば病氣は一ケ月停止したのである之れと反對に熱が上れば病氣は進行を起して活動性になつたのである下熱の良法としては絶對に安靜にするのである一ヶ月でも二ヶ月でも決し

て焦慮してはならぬ藥で下熱さすは一時的の下熱である。

四、無熱久うして初めて運動すべし。

三、四ヶ月無熱狀態が續くならばソロ〳〵運動する其運動は初めて起床次で室內次で廊下次で庭內次で附近と極めて除々に体の具合を見つゝ氣分に敎はりつゝ檢温を細密に爲しつゝ愼重に運動する若しも運動して疲れたり發熱したり体重が減つたりするならば運動は中止すべきである入浴も又立派の運動である之れ亦腰湯からヌル湯と除々に樣子を窺ひつゝ試むべきである無熱患者の娛樂的運動としては魚釣が好適と思ふ併し風ある時は禁物である。

第五　結核の個人的豫防

個人的に肺結核を豫防することは社會的の豫防施設と相俟つて必要である六千萬國民が肺結核に對する理解を持ち相警め相務むるならば玆に偉大なる効果を發揮し得るからである。

(イ)消極的豫防

一、喀痰に對する豫防

健康者でも病人でも總て痰は唾壺に吐くか紙にとるか乃至は下水溝渠便所等に吐くべきもので街路待合所車中などに吐くべきものでない國民衞生思想の有無は一塊の痰の吐き方である然るに文化を口にし道德を論ずる紳士にして猶且つ痰を隨所に吐く者不尠は結核豫防上痛嘆すべきである。

況んや身は結核病と診斷され現に治療中でありながら隨所隨時に痰を吐く者ありとせば危險であるばかりでなく不道德の甚しきものである。

結核患者の咳嗽も又注意すべきであるコルネット氏の試驗では密閉された室で患者が咳嗽すれば含菌飛沫が前方三尺以上に達し三十分以上浮動して居るから此室內空氣を呼吸するものは危險である此意味から病室の空氣は交流を色くし患者は咳嗽する時に口をガーゼ、ハンカチーフ類で掩ゐ接近者も亦マスクを使用するが安全である。

尙國民も患者も共に注意して欲しいことは公衆の出入する旅館、飲食店、待合其他に設備してある唾壺を利用することである此は結核豫防法なる法律の命令で設備した

唾壺であるが今日の乘客として之を利用するものは稀れである此れも又國民衞生思想の幼稚を物語る證左である。

今一つ希望がある夫れは患者たるものは可成公衆と接觸せぬことである一例を擧げれば初期の患者は好んで宴會訪問などに出かける傾がある斯る行爲は公衆の爲にも自分の爲にも有害であるから遠慮して欲しい。

二、衣類寢具書物其他に對する豫防

衣類寢具に結核菌がつき箪笥押入などに深く藏せられた場合は結核菌は隨分永く生きて居る古着夜具などには結核患家が未消毒で二束三文に賣拂つた品がある書類も又同樣である貸本古本圖書館などの書物は不安と感ずるのである近來圖書館の設立が盛になつたが設備急にして用意に缺くる處あるは遺憾である要するに此缺點に對する注意としては(一)古着は消毒し洗濯して用ゐ(二)貸夜具旅店の夜具は清潔の白布で襟を覆ふて使用し(三)貸本古本などは手を甜めてめくらぬ樣に或は酒精海綿で指先を消毒する樣に且つ其手でパンなど扱はぬ樣に扱ふ時は前に手を洗ふ樣に注意するのである。

三、飲食物に對する豫防

飲食物を介して結核菌を嚥み下すことは決して稀でない只此の場合は空氣を介して結核菌を吸入する時より幾分危險の度が薄いまでゞある而して數多き飲食物中特別に注意すべき物は牛乳及乳製品である今結核患者の菌型を調査するに二割は牛型結核菌だと云ふ此れは牛乳を多く飲む外國の例だが日本の如く牛乳を纔かしか飲まぬ國民でも牛型結核菌から發病した患者も相等にあるから牛乳は必ず消毒すべきである。

飲食物販賣業者で而かも結核患者でありながら飲食物を扱ふとせば客たる公衆は實に危險である結核豫防法では斯る人の從業を禁止して居る吾々の家庭としても主婦などが結核患者でありながら勝手元に出入して飲食物を調理することありとせば家族全部が結核菌を食ふ事となるから何事を措いても斷然中止しなければならぬ。

四、家屋に對する豫防

其家に住む者が代々結核になる例がある又宿直室でも此の關係を見ることがある此の如きは要するに消毒が不充分の爲め結核菌が殘存するからである貸家などは消毒

する様に注意したい家屋を消毒するには石炭酸昇汞水を噴霧し窓戸を開放して乾燥する西洋室ならばフォルマリンを水に混じて（等分位）加熱しフォルムアルグヒート瓦斯を發散させるのである。

よく〱結核豫防上不良の家屋ならば改築する必要もある結核豫防法には此等の家に對し縣が補償金を出して改造を命じ得ることになつて居る。

五、病後に對する豫防

分けて病後は結核に侵され易い殊に産後感冒胃腸病などの長引ときは結核を誘發し易い昔から風は萬病の基と云ふ所以である故に何程の病氣でも速かに治療し養生して一日も早く恢復させ体力を増進さすべきである丁度此の關係は家根が破れると雨が漏り壁が壞れて風が入り戸締が惡いと賊が入ると同じ理屈で病氣は即ち家が破損したと同樣である。

（ロ）積極的豫防

一、結婚に關する注意

身体虚弱の者は結婚を避け獨身生活に入るが自分の爲にも民族の爲にも親切な行ひである況んや現に肺尖カタールあり若しくは輕症ながら結核の徴ありとするならば斷然結婚は回避すべきである若しも斯る人が强て結婚すると結核が進行するものである就中女子には妊娠分娩の役目があるから尚更の事である世間には結核の爲めに小供を遺して逝く若き母小供を遺されて泣く若き父もあるが氣の毒の至りである併し深く考ふるならば健康を無視して結婚した結果と見らるゝのである又産みなされた小供も將來決して幸福でない何せならば生來の虚弱は免れぬから生涯之が付纏い人生の競爭に堪ゑぬからである。

二、空氣日光とに關する注意

空氣と日光と結核との關係に就ては先に說明してあるから可成省略する改めて茲に述る必要あることは住居である小さく狹隘なる家に大勢の家族が密集して生活することは衛生上有害である斯る家には虚弱者、病者、死者が多いのである彼の貧民長屋の如く晝猶闇く日光空氣の不充分の處からは結核患者が多發するのである斯くして貧に苦を重ね薄命に薄命を重ねるから何如に苦心し勤勞しても幸は不幸に先立たぬのである故に此等階級者の結核は宜しく社會の力を以て救濟せねばならぬ闇き

家より幽靈は出まいが結核患者は確かに出るのである。

三、職業に關する注意

結核は野外に働く職業者に少なく屋內に働く職業者に多い先の表にもありし如く印刷彫刻に關する職業紡績機業に關する職業敎職員の如き業務者に最も多く次は商業で農業牧畜業者には最も少ないのである事實地方の結核は農家から徒弟學生工女として都會に行きし者結核の爲に鄕里に皈來し夫れから兄弟姉妹友人近隣に傳染することが多いのである都會は墓地なりとの語があるが眞に然りと認むるのである。

職業の撰定は大切な事である虛弱な者は野外的職業を强健なる者は智的職業屋內的職業を撰ぶ事が肝腎である然るに從來は此に反對である此子虛弱なり俸給生活者とせん此子健康なり筋肉勞働に適すとは誤れる大なる者である。

米國人の調査した職業と壽命との關係に依れば都會と田舍との生活には健康上大なる差がある某州の平均壽命は農業者六十五才商業者四十九才工業者（主に產業）四十五才である又小兒の五才未滿死亡は都會は田舍の二倍である。又英國人の調査では肺患者が田舍が十五人のとき都會は其二倍餘精神病者も又田舍の四、五倍であ

ると吾邦の壯丁檢査でも百人中田舍は甲種合格五十一人なる時商業三十五人工業三十一人雜三十六人官吏事務員二十五人學生二十三人であるから都會生活は健康上不利で田舍が何如に有利であるかは明かなると同時に高等敎育を受ける程体格は下劣になるものである。

四、体育に關する注意

体育を說くに當り攻究すべきことは國民の營養問題である即ち体育の基礎は之を營養（食物）に置かねばならぬ此度の世界戰爭は交戰國民をし食糧の不足を感じさしたる爲に食量は不足となり結核が急に蔓延し死亡率が增激した就中小兒は著しく營養を害されて瘦せ衰へ病兒死兒が多くなつた實に結核豫防上最も大切なる問題は營養問題で此の營養を忘れて結核の積極的豫防は不可能である。

國民營養問題を解決してから適當なる運動（勞働又同じ）をしてこそ初めて体育の目的を達し得るのである近來は富める家庭の子供は体位が向上しつゝあるが貧しき家庭の小供は体位が向上せぬ均しく地方としても農村の小供は町の小供より營養が惡るく体格が不揃である貧すれば鈍すると謂ふが鈍のみでなく不健康となるから此

等の現象は個人的にも社會的にも見逃し得ぬ問題である元來体育なるものは滋養物を攝り而して運動してこそ初めて効果が現れるので粗食で營養が不足するのに氣付かず強く運動すると反而体力が衰耗して意外の不結果を見るのである地方の食物は概して粗食で營養分が不足である而して勞働は過度である青年も疲れて居る處女も血色が惡い父も母も早老の傾きがある小兒も又何となく元氣に乏しく紅顏でなく蒼顏であるのは抑も何故であるか營養分の不足であるか不足でないとするならば勞働過度であるか夫れとも寄生蟲の爲めなるか兎にも角にも之れでは結核の積極的豫防上不利である。

食素中特に不足しある性分は蛋白質と脂肪とである此の二素は幼兒時代は牛乳から其の以後は獸肉鳥肉魚肉から攝るべきである蛋白質及脂肪は多くのエネルギーを（力）出すから勞働する者に必要である外人は肉食だから運動を好むが日本人は穀食だから運動を好まぬと云ふ人もあつて此れは自然の方則かとも思はれる。

五、結核豫防の歌

今迄で說き來つた事柄は下の歌に包含されあると思ふから參考として揭載する。

結核豫防の歌

埼玉縣衛生課

一、結核菌に呪はるゝ　同胞茲に拾餘萬
　　別けて娘や青年の　罹りやすきはこの病

二、吁人類の敵憎むべし　痰は病の媒介ぞ
　　病むも病なぬも諸共に　つとめて消毒忘るゝな

三、日あたり惡き家や室　これぞ病の發生地
　　夜具も衣服も書も器具も、日に曝すこそ大事なれ

四、血の氣も失せて痩せ疲れ　痰せき熱のさし引や
　　寢汗不眠の事あらば　早く叩けよ醫師の門

五、早きは治り後るゝは　癒らぬ病と聞くからに
　　豫防治療を急ぐこそ　吾が身愛するつとめなれ

六、不治の病と迷ひつゝ　治療つとめず徒らに
　　悲觀煩悶世を厭ふ　いとしの患者ありとかや

七、吾れは癒すと自信して　醫藥養生努むべし

八、自から力落しつゝ　西に東にさまような
常々自然に親みて　清き空氣や日光を
身に浴びながら務めなば　結核の呪ふすきもなし

九、心平和に快活に　健康増進はかりつゝ
盡せ身の爲め國の爲め　吁人類の敵豫防せよ

結核征伐の歌

文學博士　上田萬年校閲
醫學博士　遠山椿吉作歌
日本結核豫防協會

一、あゝ結核よ結核よ　紅顔美麗の少年も
鬼をあざむくますらをも　もし此の病にかゝりなば
嵐の前の花なれや　恐れてもなほおそるべし

二、そも結核は目に見えぬ　結核菌の襲ひ來て
強しと見ゆる体にも　呼吸に障りあるときは
その弱點につけ入りて　ついに發するものぞかし

三、されば豫防の第一は　結核菌を近づけず
常に体を養ひて　よしかの菌の襲ふとも
打ちかつ程の体力を　備へおくこそ秘訣なれ

四、日も麗らかの春の海　空すみ渡る秋の野邊
あけ放ちたる高どのに　はき清めたる庭の面
塵も汚れぬ芝生など　呼吸のための仙境ぞ

五、冷水摩擦深呼吸　体操遊戯や聲樂や
大弓園藝舟遊び　散歩もよろし旅行よし
自然に觸れよ親しめよ　天地に微妙の藥りあり

六、外出嫌ひの不精もの　運動すかぬ人々は
肺結核の無二の友　大氣をあびよ日光を
暗きところに魔はひそむ　風來ぬ處に醫者來る

七、さて食物は適當に　好める物をえらぶべし
齒の衞生をおこたるな　咀嚼十分ならざれば

胃腸を害し体力を　弱めて病のもとゝなる

八、衣服は常に乾かせよ　厚着は無用寒さをば
感ぜぬ度にて足りぬべし　かたき締帶狹きカラー
重きに過るかけ蒲團　みな呼吸をぞ妨ぐる

九、衣食住に氣をつけて　寢るも起るも定めあり
規則正しき生活の　良き習慣をつけなば
病氣のねらふ隙もなく　結核菌も逃げ失せん

一〇、結核菌は病人の　はきだす痰の中にあり
生活力の強くして　乾くといへど死にきらず
一たび附けば時ながく　傳染力も消え失せず

一一、乾ける痰を棄て置けば　菌は空氣のなかに散る
鼻唇に觸れしもの　夜具に衣類に書籍より
病人の居し室にまで　永くひそむと思ふべし

一二、ことに病に注意せよ　輕きは他目にわかぬ故

咳せぬ程の人にても　對座は四尺を隔つべし

一三、もしまた痰を吐く時は　顏をそむけよ手におほへ
人の前にて咳く時は　人に危險のなき樣に
心すべきが公德ぞ　病毒ふれし品のみか

一四、不幸病にかゝるとも　必ず不治と思ふなよ
總てあやしき物はみな　消毒せずして用ゐるな
療養よろしき甲斐ありて　なほりし例數知れず

一五、手療治禁厭益はなし　攝生治療につとむべし
眞の醫師にうちまかせ　永引くとても悲觀すな
人事盡して天に待つ　この心こそ良藥ぞ
意志堅剛に持久せば　やがては春の回り來ん

第六　結核の社會的豫防

世界大戰前に於ける歐洲各國の結核は漸減しつゝあつた又米國の如き初めは肺結核は到底

豫防できるものでないとアキラメてゐたが歐洲の成績を見て飜然として悟り今日では熱狂的に結核の豫防につとめて居る努力は何物をも制服すると謂ふから米國の將來は多幸である吾邦でも政府や民間が近來本病の豫防に手を染めて來たと云ひながらまだ〳〵充分でない吾々に云はしむれば國民一般が長夜の眠りから醒めて居ないと思ふ故に吾國結核の社會的豫防は寧ろ之れからである。

社會的豫防の方法

イ、結核豫防に關する宣傳

ロ、貧困患者の救護

ハ、社會的豫防施設

ニ、國民体力の增進

以上四大要領に對し社會的に夫れ〳〵施設するならば結核は豫防し得ると思ふ。

イ、結核豫防に關する宣傳

前にも述べてあるが實際世人は未だ結核に對して深き迷信誤解に陷つて居る然らざるものは極端なる恐怖症に罹つて居る之れは一は漢方醫術の罪も在つたか一は識者が通俗的に結核に關する智識の普及を圖らぬ罪である近來新聞雜誌に澤山に結核に關する廣告的文字が見えるが此等は多く藥を賣らんとする爲である恐らく結核に關する藥程澤山に紹介されてある者はない之れ遺憾ながら結核に特効藥なき結果である讀者は本書に依つて結核は癒る者である癒らぬは癒さぬからである又結核は初期には癒り易いが末期には癒り難いから可成早期に之を診斷して合理的の治療に勵むべきこと其他人類は殆んど總べてが体内に結核を藏して居るが（潜伏結核とも云ふ）日常衛生に注意し体力保全に務めるなら無病息災で生涯を送れるから無闇に心配するに及ばぬ等詳細に知るであらう。

宣傳方法としては演劇活動寫眞講演ポスターなどあるが元來一般から嫌はれ憎まれ恐れられて居る結核は之を美化し興味化して宣傳し結核に關する智識を普及さすことは頗る困難で動ともすれば反て不快を抱かせ恐怖させ神經過敏にさせて仕まふから豫期と結果と相反する心配がある宣傳者たるものは須らく此の氣合を會得し細心なる注意を拂はねばならぬ。

ロ、貧困者の救護

富者を貧者に貧者を極貧者に突落す惡魔は多く疾病である其內でも結核は預つて力ある疾病であるどう考へても人類間に結核の橫行する間は人類の安心は求められぬ近時社會事業の方面から防貧の策を論ずる者あるに至つたが貧民階級から此の結核菌を追出さぬかぎりは徹底的の救濟はできぬ今日の實情では結核の巢窟は貧者の家庭である就中都會の貧民窟である此の貧民窟では狹き一室に家族數人雜居する有樣であるから一度結核菌が襲ふならば一家忽ち全滅の悲しみを見るのである血痰を吐きつゝ働かねばならぬ貧民瘦せ疲れた肉を働かして求めねばならぬ生活費は命のある限り力の續くかぎり何んぞ醫藥の餘裕あらんやである故を以て此等可憐の患者は總べて療養所に收容し救濟する方法を講ずべきである政府は各都市に結核療養所の設立を指定し救護の普及を促しつゝあるが歐米などの狀況から見れば前途誠に遼遠である。

英國には頃日結核部落が出來たと聞く此の部落には二軒の旅舍と一軒の看護婦宿泊所が附隨する本部落の村長さんは華族であるが結核患者は誰でも此の部落に移住し得るのである此處では患者は身心を落付けて休養することができ又自身で生計を立て得る程貯金ができる工場は斯くて繁盛する本部落は村と病院と工場とを兼ねた一の療養所である工場からは品物が製造され之を賣捌く市場があつて凡て本部落は獨立的で寄附や慈善を待たずとも自活し得るのである又本部落に移住した患者は素より好都合であるが此の隔離的移住によつて結核傳染の機會が薄らぐことは最も意義あることである人は傳染病者を隔離するが何故に肺結核も左樣に早く斯くの如く慰樂的に自由なる隔離が出來ぬかと思ふのである。

結核患者を療養所に收容する目的に二つある一は疾病の治療二は傳染の防止である獨乙戰前の結核收容所は

小兒收容所　二十三ケ所
收容力　一萬七千人

一般大人の收容所は

輕症者用　百三十六ケ所
病室　千八百九十
收容力　一萬三千五百五十五人

重症輕症共に收容する所は

八ヶ所

室數三百四十

收容力千七百四十人

兒童收容所（虚弱兒童）

六十二ヶ所

結核兒童收容所

三十ヶ所

此の收容力　千六十三人

其他疑ある結核患者腺病体質兒であつて休養を要する者の爲めに設けたる療養所は

百八ヶ所

收容力　九千三百六十四人

以上を合計すれば三百七十六ヶ所收容力四萬二千七百二十二人である。

然るに吾邦現在の有樣は獨乙に比較し面目次第もない此れでは結核は撲滅できぬ無告の病人の救護はできぬ一体日本人は病院に行くことを嫌ふ何せに嫌ふか病院生活は餘りに單調無味で徒らに窮屈である又費用も莫大であるから中產以下の人にはよし入院を欲しても到底不可能である又自分が入院すれば家族の生活が出來ぬからである故に貧民患者の救護は患者のみを救護しただけでは徹底せぬ同時に家族に生活費を補給してやらねばならぬ結核豫防法では之れを規定してある以上の意味に於て結核に對する社會的豫防事業が沛然として興り欣然として患者が集る時代の近からんことを希ふのである。

八、社會的豫防施設

牛乳製品が結核菌を媒介する以上は此れに對する取締を勵行すると同時に牛体の健康診斷並に牛舍搾乳所搾乳方法消毒販賣方法等に就ての施設を完備すべきである。飲食物書籍寢具古着等が危險である以上は之れに對しても取締る必要がある結核豫防法は之の點に就て細かに規定してあるから此の取締を嚴にすべきである約百萬人ある結核患者中の約六七割は中產以下の患者と想定できる而して少なくも其內十萬

人位は極貧者の患者であると思ふから是非共此の患者を救護する療養所が欲しい獨乙以上澤山に欲しい有料病院は金持患者の專有である以上陋屋に在つて病苦と飢寒に泣く患者は社會の力で救護せねばならぬ慈善病院の必要ある所以である。

塵芥が結核を誘發することを知る以上は制塵方法に對して施設する要がある學校工場ステーション待合は勿論街路汽車內電車內等悉く皆然りである塵芥は結核菌と假定すべきである。

結核は早期に診斷し合理的に療養すれば殆んど全く癒ると云ふからは此の早期診斷所の設置を普及さすべきである吾邦でも近來各地の結核豫防會が早期診斷所を設け公衆の依頼に應じつゝあるがまだ完全に利用されて居らぬ是れ公衆が此の必要を認める程衞生思想が向上せぬからである早期診斷は實に患者を九死に救ふものである

ヅルバン氏は發病一ヶ月以內に療養に着手したものは百人中九十九人まで　同　六ヶ月以內のものは六十七人まで　同　六ヶ月以後のものは四十人まで癒つたと報告して居る。

消毒所の普及も早期診斷所と相俟つて普及させねばならぬ必要なる施設である今日の所では患家にして消毒を行らんとすると之れを引受ける機關がない都會の如きは金さへ出せば消毒は出來るが地方では金を出しても消毒が出來ぬ移轉して家を消毒せんとするも又然りである之れでは結核豫防の智識があつても實行するに困難で結局豫防は不徹底に終る。

健康診斷を行ふて其人の長所短所を指示して職業を撰定せしめ若し病的變化を認めたならば攝生治療の相談に應ずるが如きは必要である殊に肺結核の初期たる肺尖カタールの時代に在つては本人は全く氣付かぬから早期診斷所に行く必要を自覺せぬのである自覺した頃の結核は初期の終り中期の頃であるから早期診斷所は晩期診斷所に終るのである米國などの青年團處女會などでは時々健康診斷を行ふと云ふが結構と思ふ青年の元氣活動修養等凡ての事は健康を離れて期待することは出來ぬ強いてやれば失敗無効弊害あるのみである此の見地から學校の体格檢査も一年一度位では心細い又日本の青年團處女會も又健康診斷を行つて欲しい日本の結核は此の年頃の青年に最も多いことを知る以上は尚更必要である此の春頃の國民新聞に左の記事があつた之れを讀むと健康診斷の必要が解ると思ふから轉載する（記事の內に肺尖

呼吸器病。呼吸器患者。の文字があるが之れは肺尖カタール（初期結核）と見做して差支へない又斯る事柄は獨り大丸のみでないと思ふ）。

大阪のデパートメントストーア中週休制度を率先實行した心齋橋筋の大丸呉服店では百二十餘名の女子店員に此休日を利用して週間敎育を施す爲大阪市立實踐高等女學校に委託することゝなつたが此の體格檢査は十七日同校に於て行はれた所百二十餘名の女子店員が殆ど全部脚氣に冒され居ること及び其過半數が傳染性はないが肺尖呼吸器病に罹つて居ることが判明した此の檢査に當つた伊藤醫師は「客に接せしむる必要上容貌の美しい子供を撰んだ關係もあらうけれども其の職業が終日立通しで多數の人が出入する屋内に居る關係から下肢の發達して居ることは驚くばかりであるが其の大部分が脚氣患者であり其半數が呼吸器患者であるとは實に驚くべき事實で是では敎育よりも先づ體育が何よりだと感じたので校長に此事を注意し敎育は成るべく屋内で行はないで登山或は郊外散歩等を奬勵して體育を錬ると共に智識を授けることになつた大丸の如く店員を大切にする所で此狀態であるから外の店は實に寒心に堪へない」とあつた。

二、國民体力の增進

体力保全が個人的結核豫防の根本義なることは先に縷述した通りである之れを社會的豫防の見地から論ずるも又同樣である國家の貧乏特に國民食糧の窮乏は容易ならざる大問題である墺國保險局でローゼンフエルド博士の調査を發表した中に大戰と結核死亡率の激增なる文中に曰く戰前は年々死亡率が漸減しつゝあつてウイン市では一〇〇〇、〇中四、四二人の結核死なりしもの（一八九五年—一九〇〇年）段々減じて（一九一一年—一九一三年）には僅かに二、九八となり田舍では三、五六から二、五〇であつた處が戰爭が始まつてから非常な勢で死亡率が增加し田舍でも千九百十六年に三、七六五の死亡率を出し翌年は六、三九八となつた都會も又勿論より以上に增加した之れ固より食糧窮乏の問題のみでなく戰爭に伴ふ心配過勞無理なる仕事など不良なる境遇も預かつて力ありしならんが兎に角戰爭はアラユル社會組織を破壞し國民の健康を害するのである彼のビルケー氏が戰後の營養不良兒を診察して驚いて曰く小國民は今や飢餓の爲めに体は衰弱し多く結核に罹つた此の分では國は衰亡するのみで吾等の子孫は斷絶すると叫んだのは無理からぬ次第である虛弱なる子供は吾邦には澤山にある否斯

る小供は——ハヤ既に結核の爲めに虚弱になつたのである体格不良は從來結核に罹ると云つたが今日の學説では結核のために体格が不良になるのである肋膜炎なども又此の筆法で結核が肋膜炎を起すので肋膜炎が結核を起すのでないから最後に肺結核を現はすは當り前である故に結核を社會的に豫防せんとせば先づ以て虚弱兒の体力を養成して結核兒結核青年にせぬ方法が急務である歐米で多くの虚弱兒收容所を設けある所以である學校で給食制を實行しある所以である米國人の實驗に虚弱兒に肝油を毎日五、〇—一〇、〇グラムを與へたら其兒は非常に營養佳良となり体力増進し學業の成績が佳良になつたとある冬寒き日教室の片隅で凍つた辨當をつゝきつゝある吾邦の學校兒童は可哀さうである親達は子供が可愛いならば學校費を増して給養制でも實現さして欲しい結核豫防の意味から体力増進の方面から希ふのである想へば學校の先生は氣の毒である營養不良の兒でも貧乏人の兒でも金持の兒でも健康の兒でも虚弱の兒でも一樣に收容して一樣に教育せねばならぬ他の方面は知らず体育に就て論ずるならば斯る肉体上に缺點ある兒童を奈如に体操さしても運動さしても疲勞衰弱あるのみで体育の効果は擧げ得ぬヨシ——出來るとしても勞と功と償はぬのである。

國民体育は近時非常なる勢で勃興し結構であるが女子方面の体育はまだ不振である女子に結核多き以上は特に女子体育が必要である處女會など此の點に就て考へて貰ひたい運動場所は校庭も良いが社寺の境内を開放すべきで要するに國民体力の増進は營養と運動と並行せぬ以上は奈如に努力しても薄功だと思ふ夫れには各自が食物に注意し又虚弱兒童の保護を講じ國民体育を振興さすのである一部の國民特殊階級者の娛樂的競技は以て國民体育とは申されぬ之れでは結核は豫防出來ぬから社會公共の力を俟つのである噫此秋來れ早く來れ而して結核は自滅し人生の幸福は無極なれ（文責者戸所龜作）

290
227

大正十二年四月二十五日印刷
大正十二年四月三十日發行

埼玉縣保健調査會

印刷人　清水武藏
埼玉縣北足立郡浦和町三八四五番地

印刷所　清水活版所
埼玉縣北足立郡浦和町三八四五番地

終